

東京大学医学部附属病院泌尿器科にて間質性膀胱炎でご加療中の方へ

当院では間質性膀胱炎の画像診断基準作成のための下記臨床研究（多施設国内共同研究）に参加しております。この研究は人工知能による画像診断技術を応用して間質性膀胱炎の診断精度を向上させるために東京大学医学部泌尿器科、杏林大学医学部泌尿器科、国立研究開発法人産業技術総合研究所で行われる国内多施設共同研究です。

**【研究課題名】**

人工知能 AI による間質性膀胱炎の診断

**【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】**

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学医学部附属病院 泌尿器科（分担研究施設）

研究責任者 秋山 佳之 東京大学医学部附属病院 泌尿器科 講師

担当業務 画像データ収集・匿名化

**【共同研究機関】**

杏林大学医学部 泌尿器科（主任研究施設 研究責任者：福原 浩）

担当業務 総括責任者 画像データ収集・匿名化

産業技術総合研究所人工知能研究センター（分担研究施設 研究責任者：野里 博和）

担当業務 画像データ解析

**【研究期間】**

承認後～2029年3月31日

## 【研究の対象となる方】

2009年4月1日～2019年3月31日に東京大学医学部附属病院、杏林大学附属病院で膀胱水圧拡張術を受けた間質性膀胱炎の患者さん

## 【研究の目的】

人工知能を用いて間質性膀胱炎の診断精度を向上（病型診断の標準化、ハンナ型病変の自動検出）させる方法の確立を目指します。

## 【研究の意義】

現在、間質性膀胱炎の診断・分類方法は内視鏡画像所見などの主観的判断基準に基づいており必ずしも正確性の高いものではありません。間質性膀胱炎の内視鏡画像所見を人工知能による深層学習モデルへ組み入れることにより、正確性・再現性の高い客観的診断基準システムを構築することが出来るのではないかと考えられます。

## 【研究方法】

この研究は東京大学医学部、杏林大学医学部、国立研究開発法人産業技術総合研究所各倫理委員会の承認を受け、本施設では東京大学医学部附属病院長の許可を受けて実施するものです。東京大学医学部附属病院及び杏林大学附属病院においてこれまでに診療として実施された膀胱水圧拡張術の術中内視鏡画像を収集してすべて匿名化・暗号化し、記録媒体を国立研究開発法人産業技術総合研究所へ郵送します。同研究所では術中内視鏡画像を人工知能に学習させ、これまでよりも精度の高い間質性膀胱炎の診断体系システムを構築することを目的とする研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

## 【個人情報保護】

この研究に関わって収集される情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの術中内視鏡画像データは、解析する前に氏名・ID 番号の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当研究室において個人情報管理責任者である秋山佳之のみが使用できるパスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。ただし、必要な場合には、当研究室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

匿名化されたあなたの上記情報・データは、DVD・HDD などの記録媒体にパスワードをかけて記録し、杏林大学医学部及び東京大学医学部各々より国立研究開発法人産業技術総合研究所に送られ解析・保存されます。

この研究のためにご自分（あるいはご家族）のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで 2023 年 9 月末日までにご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後 5 年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

なおこの研究に関する費用は主に厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）（「間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する研究」）及び研究機関（東京大学大学院医学系研究科泌尿器外科学・杏林大学医学部泌尿器科）の講座運営費から支出されています。

○本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

尚、あなたへの謝金はございません

**【研究に関する問い合わせ先】**

東京大学医学部泌尿器科 講師 秋山 佳之

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

Tel : 03-3815-5411